

令和 8 年 3 月 16 日

世田谷区立山野小学校
校長 小泉 一弘 様

世田谷区立山野小学校
学校関係者評価委員会
委員長 長島 知数

令和 7 年度学校関係者評価委員会報告書

山野小学校学校関係者評価委員会では、令和 7 年 11 月及び 12 月に実施された「関係者アンケート調査集計結果」及び学校より提出いただいた「自己評価報告書」「重点目標の自己点検」をもとにその分析・評価を行いました。あわせて先生方とのヒアリングを通じてみてきたことや感じたことを議論し、結果を以下のようにまとめましたのでご報告させていただきます。

<アンケートの回収について>

今年度は世田谷区と学校の連携がうまくとれていなかった結果、11 月に実施したアンケートは学校の独自項目のみ発信してしまいました。学校と協議した結果、昨年まで実施していた共通項目に関しても評価をしてほしいということで、保護者の皆さんには 12 月に 2 回目のアンケートをお願いしました。結果として学校より通知いただいた今年度の保護者に関するアンケートの回収率は全校で 59.8%(1 回目)、28.5%(2 回目)となり、前年に比較してそれぞれ 13%、44.3%減少しました。まずは保護者の皆様に混乱を与えてしまったこと、大変申し訳なく思っております。当然のことながら数字としては大きく下がってしまったため、正直学校全体の傾向を分析するには十分とはいえません。その点お含みおきいただきながら本報告書をお読みいただければ幸いです。

<重点目標に関する評価>

今年度学校経営方針の中で策定されている重点目標について、本アンケートの結果を踏まえて評価委員会にて議論し、評価いたしました。評価する項目については、山野小学校の内部評価(自己点検項目)に従って関係しそうなアンケート項目をピックアップしています。評価については、アンケートの肯定的評価が 80%以上になっていれば目標達成であるとして考察しました。以下記載いたします。

※報告書の中で肯定的評価と記載しているのはアンケートの「とても思う」「思う」の割合を合計したものです。

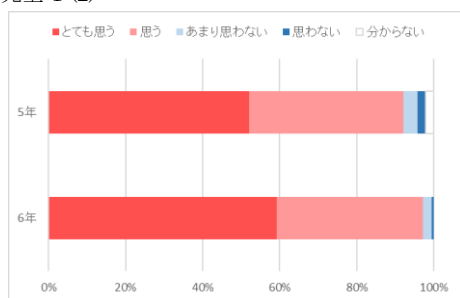
【内部評価①】：わかる授業づくりを工夫する／基礎基本の定着を図る／考え方や学んだことがわかるノート指導を工夫する

>>評価委員による評価・考察

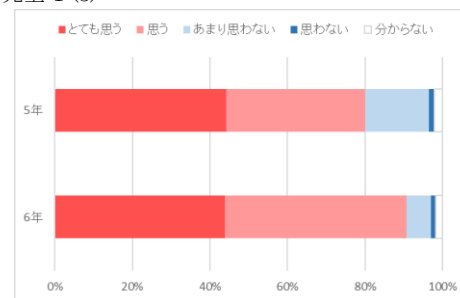
児童アンケートの1-(2)先生は課題(めあて)について自分で考えたり友達と考えたりする時間を授業の中で取っている、1-(3)先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している、1-(5)先生は映像やタブレットを工夫し分かりやすい授業をしている、独-(5)私は授業中タブレットを活用できている、の4項目の結果をみると、1-(2)は94.6%、1-(3)は85.3%、1-(5)は87.9%、独-(5)は95.5%という肯定的評価であり、全ての項目において80%を超える高い達成率でした。

一方、同様の質問に対する保護者アンケートの1-(1)本校は子どもが考えることや課題を解決することを大切にしている授業を行っている、1-(2)本校は黒板の書き方やプリントなどを工夫している、1-(4)本校は映像やタブレットを工夫し分かりやすい授業をしている、の結果をみると、全学年平均では1-(1)は87.6%、1-(2)は74.2%、1-(4)は80.7%となっており、1-(2)以外の項目は80%を超える高い評価でした。

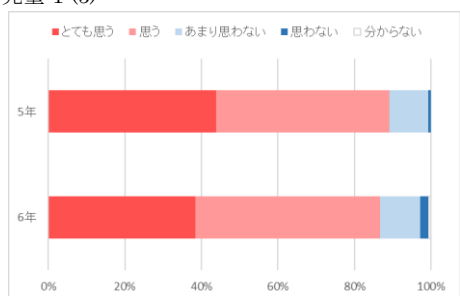
児童-1-(2)



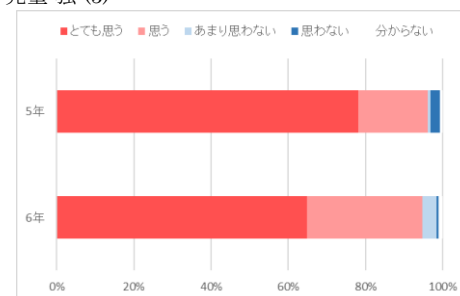
児童-1-(3)



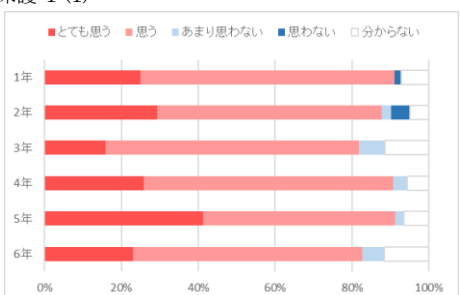
児童-1-(5)



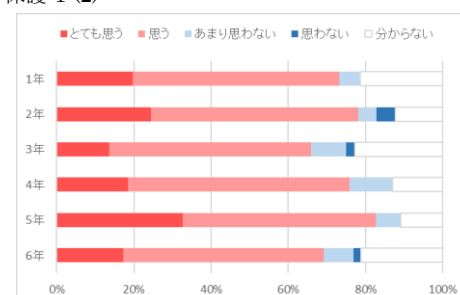
児童-独-(5)



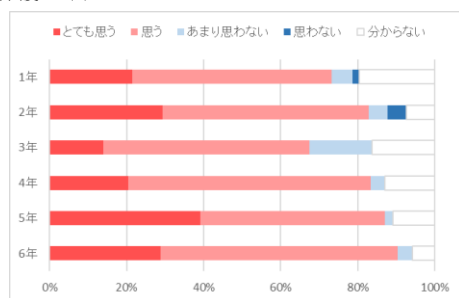
保護-1-(1)



保護-1-(2)



保護-1-(4)



授業そのものの評価については、児童-1-(2)、1-(5)の評価が80%を大きく上回っており、かなり高いとみてとれます。昨年同様のコメントとなりますが、これは大いに評価すべきであり先生方の日々の準備や授業に取り組む姿勢が今年も評価されたものと考えます。昨年の分析の中で、当時5年生の児童-1-(3)の結果があまりよくなかった(約70%)ため、結果は受け止めていただき次年度につなげてほしいと書きました。今年の6年生の結果をみると、肯定的評価が90.6%とおよそ20%も改善しています。これはおそらく6年生の担任全体で試行錯誤し、工夫した結果であると考えられます。

また、独-(5)の評価については本年も95.5%という結果でした。ICTの活用ができるできないという点においてはほとんど問題ない状況だといえます。昨年に引き続いて同じ指摘をいたしますが、逆にいうと4.5%の児童については活用できていないと感じています。これだけICTを使った授業のウエイトが高くなってきているにもかかわらずまだ活用できない児童がいるという現状は決して楽観視できるものではありません。先生方の中にもICTに不慣れな方もいるでしょうから、児童が活用できるようにする以前に先生方のICTスキルを底上げしていく必要があると考えます。

一方で保護者からみると、昨年に引き続き今年度も1割~2割程度「分からない」という回答がありました。学校の様子が見えにくい状況下ではある程度「分からない」という回答がでてくるのは致し方ないのかもしれませんが、6年生の保護者について保護-1-(4)をみると、肯定的評価が90%を超えており、全学年で最もよい評価をうけています。引き続き児童や保護者から評価されるような授業を継続して行ってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

学習指導全般における項目について高い評価を得たこと、また、それに関する分析として教員の姿勢や具体的な取り組みについて肯定的な評価をしていただいたことは、とても喜ばしいことであり、この結果と分析を教員の自信につなげ、授業改善に向けた意欲をさらに高めていきたいと考えます。

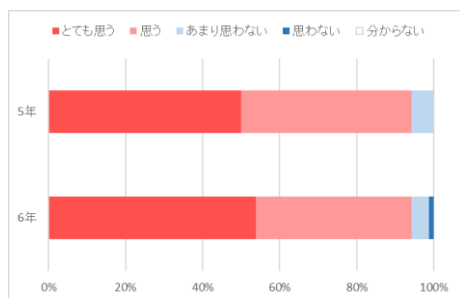
一方、ICTの活用については、児童が「活用できていない」と感じている原因として考えられることをさらに詳細に検討していく必要があると考えます。教員や児童のスキル、活用場面とツールの関係性など、原因として想定できることを授業改善の重要なポイントとしてとらえ、校内研究の場などにおいて検討を重ねていきたいと思います。

【内部評価②】：発言や意見交換の仕方が身につくよう指導する

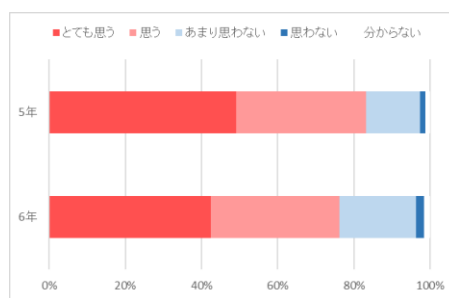
>>評価委員による評価・考察

児童アンケートの 1-(4)授業では話し合ったり発表し合ったりする機会がある、独-(1)私は授業中自分の考えをもつことができる、独-(2)私は授業中自分の意見を書いたり発言したりして伝えようとしている、独-(3)私は興味を持ったことにすすんで調べようとしている、の結果をみると、1-(4)は 94.2%、独-(1)は 79.7%、独-(2)は 62.5%、独-(3)は 83.9%という肯定的評価でした。保護者アンケートの 1-(3)本校は子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある、の結果をみると、1-(3)は 87.5%と 80%を超える評価となっています。

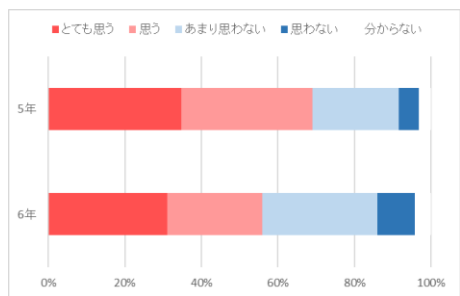
児童-1-(4)



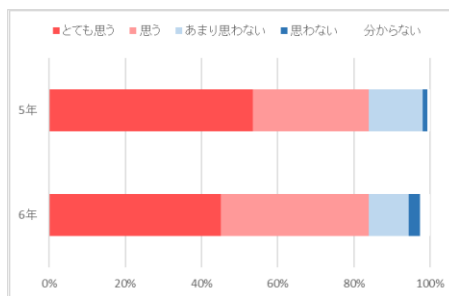
児童-独-(1)



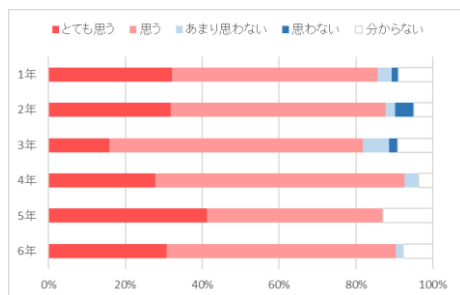
児童-独-(2)



児童-独-(3)



保護-1-(3)



授業の中で子どもたちが話し合ったり発表する機会がある、という点においては児童も保護者も肯定的評価が高い数字となっており、先生方が発言の場や児童同士が意見交換できるような授業をしていることがあらわれているといえます。しかしながら、下記のように並べてみると傾向が見えてきます。

1-(4)自分が考えたことを話し合ったり発表する機会はある(94.2%)→独-(3)興味をもったことにもすすんで調べようとしている(83.9%)→独-(1)授業中に自分の考えをもつことはできている(79.7%)→独-(2)授業中に自分の意見を伝えることができる(62.5%)

結果として今年度も昨年と傾向は大きく変わりませんでした。矢印の方向へ進むにつれて肯定的評価がさがっています。まとめると、考えをもっておりすすんで調べているにもかかわらずまわりにそれを伝えることができている、ということです。特に国語や道徳の授業においては、答えが決まっていなくて多いのですが、答えが決まっているような科目においては学級の雰囲気によっては手を上げにくい場面があるということでした。茶化されたらいやだという気持ちが働いたりするのでしょうか。

社会にでても、自分の意見をまわりに伝える場面は多いです、できないでいるとコミュニケーションがうまくはかれず評価もされにくくなってしまいがちです。ぜひ先生方にはそういう子どもたちが手を上げやすい雰囲気づくりができるよう引き続き努力していただけるとありがたいです。

<< 学校からのコメント >>

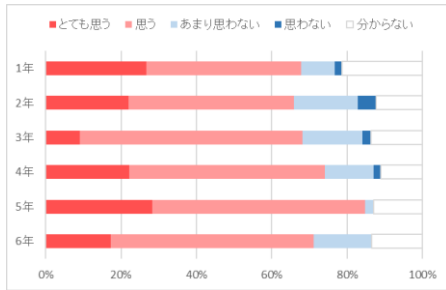
学習中に表現の機会はある、すすんで探究しようとする意欲や自分なりの考えはある程度もっているものの、十分に表現しきれていないというご指摘であると受け止めます。学習中の環境設定に留意したり、学習展開をさらに工夫したりしていくことはもちろん、児童の人間関係をさらに豊かにしていくことにも注力していく必要があると考えます。児童の自立、就労までを見据えて、他者とのかかわりを重視した指導を重ねていきたいと思えます。

【内部評価③】：児童なりに判断し行動する力を育てる

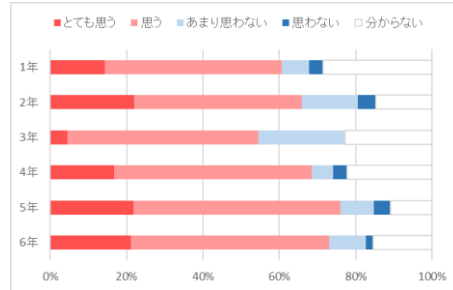
>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの2-(1)本校は学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている、4-(1)本校の教員は子どもに目標をもたせその実現のために支援している、4-(2)本校は子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている、の3項目の結果をみると、2-(1)は72.0%、4-(1)は66.5%、4-(2)は58.7%の肯定的評価であり、特に項目の4については目標を大きく下回る結果となりました。

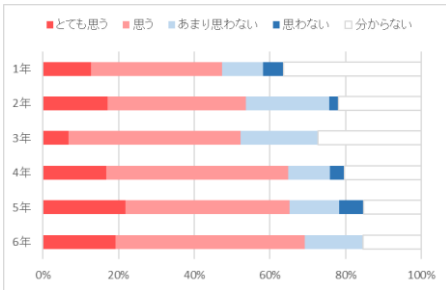
保護-2-(1)



保護-4-(1)



保護-4-(2)



毎年これらの質問については「わからない」という回答が多いです。質問の内容について答えるには、学校での様子がある程度わからないといけないからです。それでも今年度も肯定的評価が50%以上となっており、学校に対するよい評価のあらわれであるといえるのではないのでしょうか。これらの質問について肯定的評価をあげようとするのは相当ハードルが高いです。保護者への情報発信だけでなく、子どもたちからも家庭に伝わるような授業をしなければなりません。質問内容はキャリア教育につながると考えますが、保護者にとってわかりやすく表現しようと思うと、通常授業以外のイベントなどを開催する方法があります。しかしながらこれは先生方に大きな負担が生じることであり、学校側としても毎年実施していくことは難しいかもしれません。学校の重点目標にも通ずる部分ですので、ぜひ次年度以降もどのようにしていくのがよいか話し合っていたきたいです。

<< 学校からのコメント >>

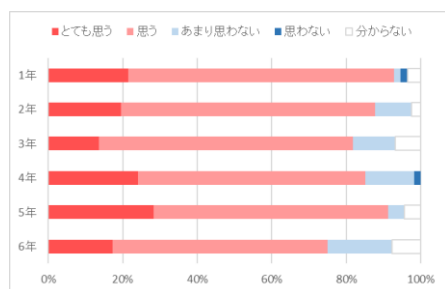
例年、課題となる項目です。日々の学習のほとんどすべては児童の将来につながるものであることを考えれば、特別に「これはキャリア教育だ」と意識させる必要はないかもしれません。しかし、今、学んでいることが自身の将来にどのように関係してくるかを意識させることは大切です。発達段階に応じて、学びの意義を児童が自覚できるように、粘り強く、着実にはたらきかけていく必要があると考えます。さらに、保護者、地域の皆様に対する発信の内容と方法を工夫し、より分かりやすく学校の取組を伝えていく努力も不可欠であると考えます。

【内部評価④】：社会的マナーを育成する

>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの2-(2)本校は教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している、の結果をみると、85.7%の肯定的評価であり、目標を達成できています。

保護-2-(2)



社会的マナーに直接つながるかはわかりませんが、アンケート項目の中では近いと判断し関連付けて評価しました。肯定的評価は昨年とほぼ変わりませんでしたが、「わからない」が減って否定的評価の割合が増えました。特に6年生の保護者からはこの項目の評価が低く75.0%という結果でした。子どもたちの理解度について厳しい反応がありましたが、7割を超える肯定的評価を得られている状況はとても素晴らしいことであると考えます。現在の山野小学校がとても落ち着いた状況であることがよくあらわれているのではないかと推察します。

<< 学校からのコメント >>

分析していただいたとおり、児童は概ね落ち着いた状況で生活できていると考えます。しかし、日々の学校生活の中では、児童がルールを守れない、マナーを意識できないという状況が少なからず認められます。児童一人一人を的確に見とり、個に応じた指導を充実させていくためには、教員の生活指導力を向上させ、組織的に対応していく必要があります。研修等を通して教員の資質・能力を向上させること、学校に配置される様々な人材（スクールカウンセラー、インクルーシブ教育支援員、エデュケーションアシスタント、学校生活サポーター等）も活用しながら組織的対応を充実させることなどにより、児童の規範意識を高めていきたいと考えます。

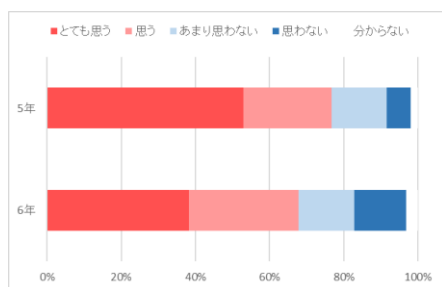
【内部評価⑤】：体力向上に向けて取り組ませている

>>評価委員による評価・考察

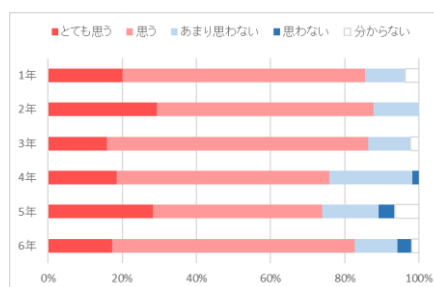
児童アンケートの独-(10)私はすすんで運動したり体を動かす遊びをしたりしている、の結果をみると、独-(10)は72.3%の肯定的評価であり、目標を達成することはできませんでした。

また、同様の質問に対する保護者アンケートの6-(5)子どもは体力の向上や健康な生活に取り組んでいる、独-(6)子どもたちはすすんで運動したり体を動かす遊びをしたりしている、の結果をみると、全学年平均では6-(5)は82.0%と目標を達成したが、独-(6)は73.5%の肯定的評価であり、目標を達成することはできませんでした。

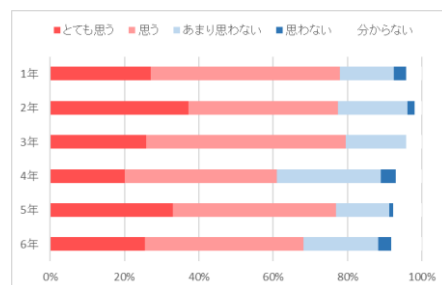
児童-独-(10)



保護-6-(5)



保護-独-(6)



今年度も昨年同様高学年の児童アンケートの結果としては肯定的評価が8割を超えることはありませんでした。受験準備や受験そのもので忙しい子どもたちにとって、全員がすすんで運動することはできていない現状があらわれています。学校で先生方が子どもたちの体力向上へ向けに取り組んでいることはよくわかりますが、なかなか学校内だけでその意識を高めることは難しいのだと思います。放課後の運動習慣を先生方がうながすことはほとんどできないでしょうし、毎年傾向を変えていくのは時代として厳しいと言わざるを得ません。あくまで参考数字として捉えていただければ幸いです。

世田谷区内の子どもたちが満足に体を動かせる場所はかなり少なくなっているように感じます。砧には公園が多く存在しますし、砧公園に近い立地でもありますが、ボール遊びをするのが制限されたり、遊具も簡単なものしか設置されなくなってきました。

この問題は学校だけで解決できるものではありませんから、世田谷区としてぜひ子どもたちが積極的に運動をできる環境整備に力をいれてほしいと思います。

<< 学校からのコメント >>

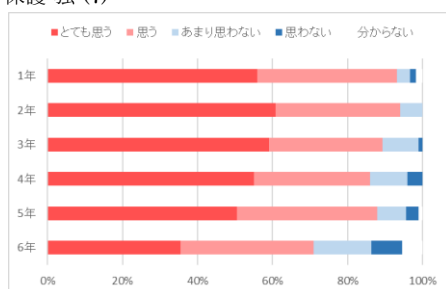
児童の体力向上は、学校の取組だけで成果を表すことが困難であることは間違いありません。社会状況や家庭生活、児童の生活習慣の変化などに大きく左右されます。しかし、児童の心身の健全育成を目指す学校において、意図的・計画的な実践を地道に継続していくことは重要です。健康体育委員会を中心として、体力テストの結果を丁寧に分析したうえで、体育的活動の充実を図るとともに、運動の日常化に向けた環境整備やはたらきかけを進めていきたいと思います。

【内部評価⑥】：マナーを守って食べるよう指導する

>>評価委員による評価・考察

保護者アンケートの独-(7)子どもたちは学校の給食を楽しみにしている、の結果をみると、独-(7)は 86.9%の肯定的評価であり、目標を達成することができています。

保護-独-(7)



昨年から、児童アンケートで食事についてきくのをやめました。給食中の食べ方についてはコロナ以前に戻ることはなく、先生方もマナーを指導する状況ではないということがわかったからです。保護者の皆さんへは子どもたちが給食を楽しみにしているかどうか、という質問をしていますが、結果として8割を超える肯定的評価となったことは喜ばしいことだと考えます。特に山野小学校では校内で調理しており、子どもたちの栄養を考えて工夫を凝らした給食が提供されています。引き続き保護者から評価される給食づくりに取り組んでいただけると嬉しいです。

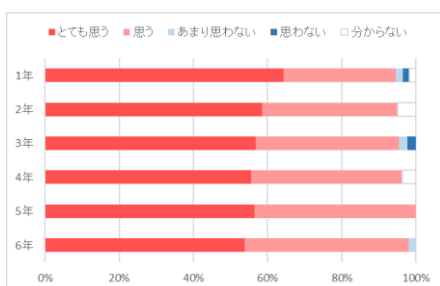
<< 学校からのコメント >>

給食時の過ごし方は、コロナ禍以前の状況に戻ってきました。和やかな雰囲気の中で食事をする様子が認められます。感染性の疾病が認められ、学級・学年で欠席が増えてきたときなどは、コロナ禍と同様に、一時的に「前向き・黙食」といった喫食形態にすることがありますが、教員、児童ともにしっかりと対応できています。栄養士を窓口として給食調理員との連携をさらに深め、今後も安全・安心な給食の提供を継続していきます。

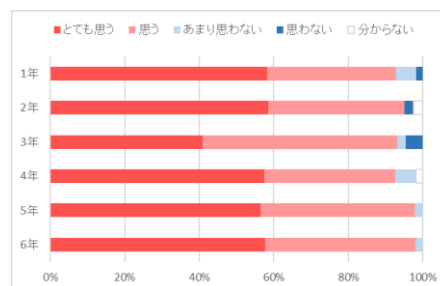
<子どもたちと学校の関係性について>

3-(1)学校行事は子どもにとって楽しい、3-(2)学校行事は子どもにとって達成感がある、3-(3)本校は子どもの意欲を大切にしている、6-(1)本校の学校生活は子どもにとって楽しい、の4つの項目の結果をみると、すべての項目において学年平均が90%を超えており肯定的評価がとて高いことがわかります。

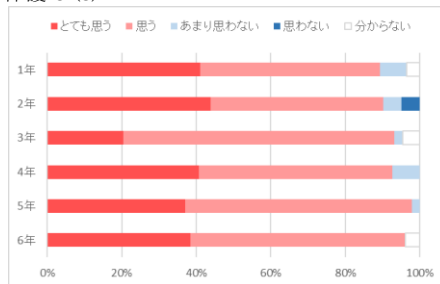
保護-3-(1)



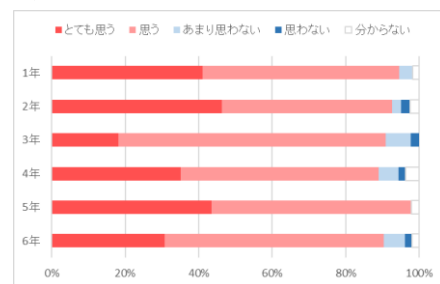
保護-3-(2)



保護-3-(3)



保護-6-(1)



毎年の評価にはなりますが、これらの項目に関する保護者の肯定的評価が高いというのは素晴らしいことであると考えます。特に、3-(1)と3-(2)については、肯定的評価のうち「とても思う」の割合が5割を超え、6割にせまる高い評価でした。これは、山野小学校が開催する学校行事に対して保護者の皆さんが大きな満足を示していることの現れです。学校行事は子どもたちが活躍し、楽しんでいる様子を保護者が直接見ることができる数少ない場面です。他人から聞いた話ではなく、保護者ご自身で目にすることでその感動を味わうことができるわけですから、ある意味ストレートな感想を得やすいという側面があります。その結果が高い肯定的評価ですから、これは学校に対する大きな信頼の証であるとともに、先生方の指導や校長先生の経営が保護者の皆さんから支持をうけていることの証明であるといえます。

山野小学校の特徴ともいえるフェスタについては最大の学校行事ですが、今年度も評価委員会からのヒアリングや、内部評価において先生方からご意見が寄せられました。一昨年から少しずつフェスタの形式を変えることによって、通常授業に影響を与えすぎないように共存をはかる動きがすすんでいます。しかしながらまだまだ変化が必要だという声の大きいのも事実です。もちろん子どもたちのためのフェスタですから子どもファーストで考えていくべきですが、保護者や地域の声も大切にしたいという意見がありました。年間指導計画がフェスタなどの行事を反映していないため、大きく見直すべきだという厳しい意

見もありました。昨年の報告書で「変わらないために変わり続ける」ことが大事だと書きましたが、この地域が紡いでいる連帯感・学校を大切に思う気持ちにご配慮いただきつつ先生方を含め皆さんが前向きに参加できる形に改善していきましょう。毎回記載していますが、ぜひ保護者や地域などの学校関係者に協力を仰ぎながら今後も学校経営の中で試行錯誤して行ってほしいです。

<< 学校からのコメント >>

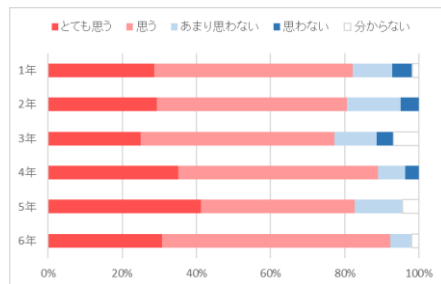
本校において、「フェスタ」は大きな特色の一つですので、高い評価を得られたこと、その背景にある教員の努力を認めていただけていることは大きな励みになることです。保護者・地域の皆様、そして何よりも子どもたちのために、今後も充実した実践を継続していけるようにしたいと考えます。

学校行事の計画・実施にあたっては、その準備も含めて、教育課程上の位置付けや指導計画の作成を適切に行い、指導していくことが必要です。社会状況の変化の激しい時代にあって、「本校は、これでよい。」という構えではなく、毎年、丁寧に振り返りを行い、成果と課題を検証しながらよりよい取組を継続できるようにしていきたいと考えます。

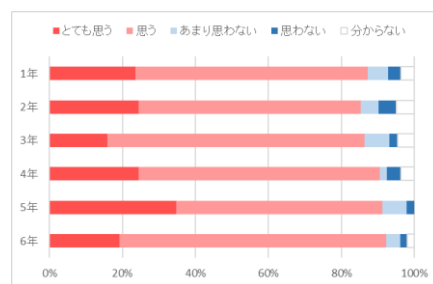
<保護者と学校の関係性について>

5-(2)本校は子どものことを相談しやすい、6-(4)本校の教育活動に満足している、7-(1)本校は様々な便りなどで保護者に情報を提供している、7-(3)本校は学校公開や保護者会などで児童の様子が分かる、7-(4)本校はホームページやメールなどで保護者に情報を提供している、独-(8)保護者同士のかかわりが十分に取れている、の6つの項目の結果をみると、5-(2)は84.0%、6-(4)は88.9%、7-(1)は93.2%、7-(3)は91.5%、7-(4)は86.2%、独-(8)は38.1%の肯定的評価でした。

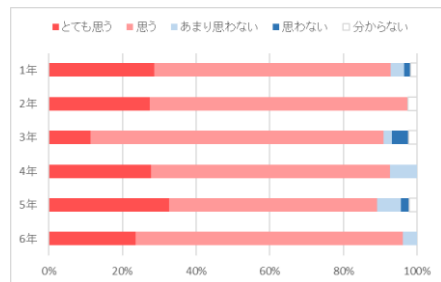
保護-5-(2)



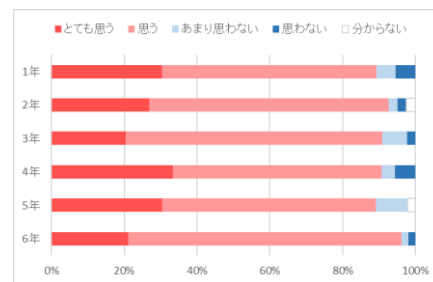
保護-6-(4)



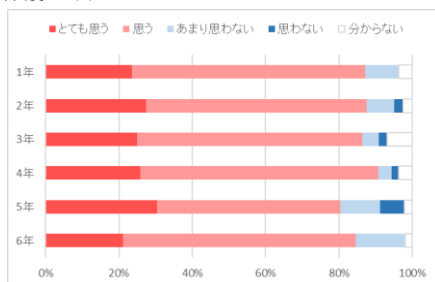
保護-7-(1)



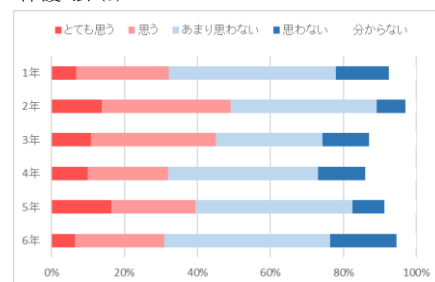
保護-7-(3)



保護-7-(4)



保護-独-(9)



5-(2)、6-(4)、7-(1)、7-(3)、7-(4)、の結果をみると、全ての項目において8割を超える肯定的評価であり、特に7-(1)、7-(3)、の項目においては9割を超えました。この結果をみると、先生方や学校に対する保護者からの信頼を感じることができます。7-(1)、7-(3)、7-(4)はすべて学校側からの情報提供に関する項目ですので、積極的に保護者へ情報提供をおこなっている様子がみられ大いに評価できるといえます。特に、7-(1)が高い評価を得られていることは素晴らしいといえます。コロナ禍を経て時代の流れとともに、保護者が学校の様子をうかがい知ることが難しくなっています。そんな中においては、保護者が満足

に情報提供をうけていると認識している状態がまずは重要であると考えます。「学び舎」についてはもはやここで議論するまでもないので記述しませんが、一つ気になることがありました。今年度の砧中学校の学校説明会の情報が前日に保護者に知られるということがあったそうです。学び舎としての連携がうまくとりにくいのはわかりますが、さすがにこれはよろしくありません。昨今私立中学校への進路を考へるご家庭が増えているとはいえ、まだまだ公立の中学校へ進みたいと考へるご家庭も多いです。ぜひこういうことがないようにしっかりと情報提供していただきたいと存じます。

ホームページに関しては特に学校生活における写真がアップされるとわかりやすくいいとは思いますが、いまだに給食の写真のみになっているという不満の声がありました。これには2つの問題点があると推察します。1点目は環境の問題。ホームページをアップするPCが1台しかないため、先生方が任意のタイミングであげることができないという状況です。2点目はデジタル社会の問題。子どもたちの顔が映りこむのを極端に避ける傾向にあります。そのため、構図や撮り方を気にする必要があり先生方の負担が大きいということです。これらを解決していくのはとても大変だと思いますが、言葉での情報提供に比べて画像での情報提供は圧倒的に伝わる情報量が違います。世田谷区にも協力を要請する必要があるとは思いますが、ぜひ学校には頑張っていただきたいところです。

今年度も、独(9)は肯定的評価がとても低いという結果になりました。保護者同士のかかわりがほぼとれていないという現状です。世の中的に一般化してきたオンデマンド配信方式。学校からの連絡もこの方式が採用され、普段仕事をしていてリアル参加ができない保護者にとってはいつでも好きな時間に見ることができるこの仕組みはとても喜ばれています。一方で、オンデマンド配信方式になったことにより、より保護者同士の関わりは減りました。Web開催であってもリアルタイムであれば誰かの質問に先生が答える様子を見ることができました。しかしながらオンデマンドは双方向のやりとりではありませんので、質問に関するやりとりが共有されにくいというデメリットもあります。どちらがいいという議論をするつもりはありませんが、本当はいざというとき保護者同士のコミュニケーションがとれていたほうが事はうまくいきやすいです。

昨年も書きましたが、保護者同士のかかわりは完全にとれていないわけではなく、個々のつながりはあるはずです。そのため不安かといえばそうではないのでしょうか。とはいえこれ以上肯定的評価を落とすような状況にはならないよう運営してほしいです。

<< 学校からのコメント >>

「学び舎」に関する情報提供については、今年度のミスを十分に反省し、二度と繰り返すことなく、丁寧な情報発信ができるように努めます。ホームページに掲載する情報については、今後も個人情報の扱いや教員の負担に十分に留意しながら、教職員の役割分担を整理して、無理なく充実させていきたいと思ひます。保護者同士のかかわりについては、学校の介入がなかなか難しいところではありますが、保護者会の内容や開催方法を工夫するなどして、コミュニケーションを図る機会の確保に努めていきます。

<WiFi 環境/ICT 教育について>

今年度も先生方のヒアリングにおいて、ICT 教育についてお話をうかがいました。先生方のヒアリングの中で、黒板などにミラーリングする EZCast が劣化してきているというお話がありました。授業をデジタルでおこなおうとしてもとまってしまうとのこと。設備は世田谷区の予算組みの問題だとは思いますが、実際に授業がままならないのは問題なので、すぐに次年度予算もしくは臨時の設備修繕などで対応してもらうことを提言いたします。ICT 教育の良し悪しは様々議論がある中で、日本の方針としては「良し」の方向に進んでいます。であればそれを実現していくための設備に投資するのは当然のことですので、ぜひ検討していただきたいです。

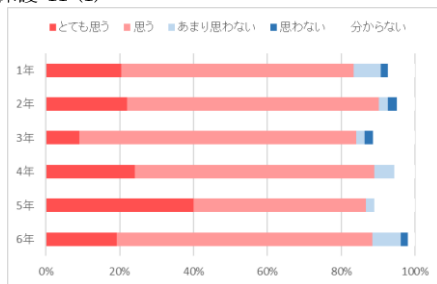
<< 学校からのコメント >>

情報機器については、今年度もいくつかの不具合が生まれました。コロナ禍より、児童一人一台端末という学習環境になりましたが、まだ課題は多いというのが現状です。引き続き教育委員会との連携を図りながら、教育活動を円滑に進めるための環境整備を行っていきたいと思います。

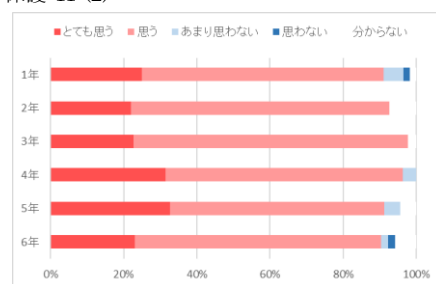
＜学校と安全について＞

11-(1)本校は安全な学校づくりを進めている、11-(2)本校は避難訓練やセーフティ教室などで子どもに安全に関する指導をしている、11-(3)本校は自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している、独-(5)子どもたちは安全に気を付けて登下校をしている、の4つの項目の結果をみると、11-(1)は86.9%、11-(2)は93.2%、11-(3)は87.2%、独-(5)は71.1%の肯定的評価でした。また児童アンケートでは、独-(12)私はいつも安全に気を付けながら登下校をしている、の結果をみると92.7%の肯定的評価でした。

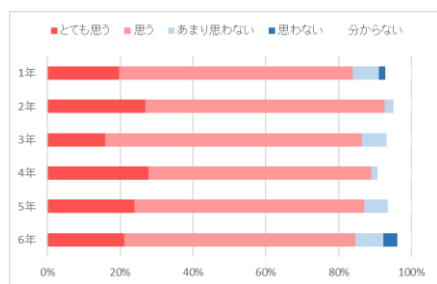
保護-11-(1)



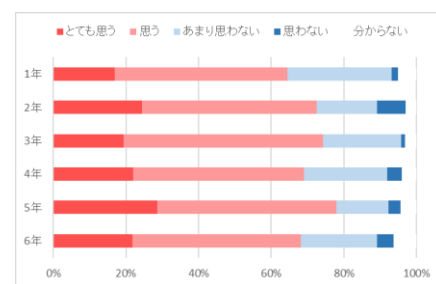
保護-11-(2)



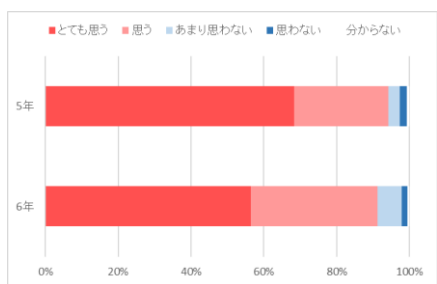
保護-11-(3)



保護-独-(5)



児童-独-(12)



ちょうど今年で東日本大震災から15年が経過しました。地震大国である日本では、こういった大規模災害を経験することで節目節目で思い出し、追悼し、防災について考えることが多くあります。もちろん小学校がかかえている安全上の問題はそれだけではありません。不審者が校内に侵入したり、登下校中に交通事故にあったりと、子どもたちの安全を脅かす可能性のある事案は少なくありません。保護者アンケートの11-(1)、11-(2)、11-(3)をみればわかるように、今年度も保護者からは学校の安全対策についてほとんど不安はないという結果です。山野小学校は2018年に新築されていますので、新しい校舎になっ

今年で8年目を迎えました。古い校舎に比べればセキュリティが高いと感じてもらえていますが、それ以外にも主事さんや警備員の皆さんをはじめ多くの目で守られることによって誰でも簡単に学校に立ち入ることができないようにしていることがプラスに働いていると考えます。

今年度も保護者と児童に対してそれぞれ登下校中のことについて聞いてみました。結果をみると、安全に気を付けながら登下校できていると認識している児童は実に9割を超えています。保護者は7割程度にとどまっています。児童は気を付けているつもりかもしれませんが、まだまだまわりの大人の目で見れば安全に気を付けているようにみえていません。この認識のずれは問題があると考えますので、今後の登下校中に関する指導の中で今のままではまずいんだよ、ということをより具体的に説明し理解をうながしていく必要があります。

<< 学校からのコメント >>

防犯・防災面での安全確保については、今後も万全を期していきます。児童の登下校の様子については、委員の方々との意見交換の中でもいくつかの課題が示されました。校内での学校生活と違い、なかなか教員からの指導が及びにくいところではありますが、粘り強く指導していきたいと思えます。令和8年度には、学校運営協議会の中でも話題にさせていただき、保護者・地域の皆様に登下校を見守っていただいている状況をさらに充実させていきたいと考えます。

＜働き方改革について＞

今年度も昨年に引き続き先生方のヒアリング時に、働き方改革によって働きやすくなったかどうか、という質問をしました。3班にわけてヒアリングを行いました。全体的に参加した先生方からは肯定的評価を得ることはできず、「実感できない」「行政のビジョンが見えない」「その場しのぎである」といったご意見をいただきました。また、重点目標の中にもありますが、近年多様性の尊重ということで個々人の特性や性格を認めつつ共に学び育つ環境にしていこうとしています。そうするとどうしても現場での課題も増えてきます。例えば次のような意見が出ました。

- ・車いすなどの子が生活しやすい環境をどう整えるのか
- ・担任以外のサポートが必要な子に対してどうしたらいいのか
- ・支援が必要な子に対しての周囲の見方に対するケアをどうすればいいのか
- ・集団への指導と個別の支援の違いを保護者に理解してもらうにはどうしたらいいのか

様々な個別ケースもありますから一律こうしたらいい、ということでもないとは思いますが、一つできることは先生方をヘルプできる人材を確保するということでしょうか。もちろん学校支援として地域の方々に参加してもらい、サポートをうけている現状ではありますが、これだけの規模の学校では圧倒的に人数が足りないということだと推察します。サポート人員だけでなく実際の教職員についても続けられずにやめていく人も後を絶たないと聞きます。そもそも教職員になる人口が減っている状況の中、できたらしっかりと育てあげる必要があるはずだがそれができない状況に歯がゆさを感じている先生もいらっしゃるようです。

こうしてみると、行政が考えなければならないのは表面的な「働き方改革」ではなく現場で先生方が疲弊しないような「環境づくり」ではないでしょうか。そもそも行政と現場でこれだけ意見が食い違うのはなぜなのか、ということは我々評価委員の間では常に話がでるところではありますが、長期的にみてもなんとかしていかなければならないテーマであると考えます。この問題については管理職である校長先生ご自身も他人事ではなく、大規模校と小規模校でまったく業務量が異なっており、個人のマンパワーでこなしている現状です。行政の方々にはぜひご理解をいただき、この状況が当たり前ではなく危機的状況であるという認識で今後の施策を考えていってほしいと切に願います。

<< 学校からのコメント >>

本報告書の内容や意見交換の中で出た話などから、学校評価委員の皆様が私たち教職員を支えてくださる強い思いを感じました。心より感謝申し上げます。

教育の質の向上を目指す働き方改革については、今年度も様々な取組をしてきました。次年度以降も、教員が子どもたちのために費やす時間をできるだけ多く確保できるように、改革を推進していきます。

今年度は新校長として小泉校長先生を迎え、あらたな山野小学校を築くべくすすんできました。世の中をみてみますと、アメリカの影響により世界政治が大きく動きました。また、AIを利用する人や企業が増え、AIが社会インフラになりはじめた年でもありました。歴史的にみれば大きな転換期の真ただ中であるといえます。そんな難しい環境ではありましたが、小泉先生を中心として子どもたちは1年間元気に過ごしてきました。

冒頭でも記述しました通り、アンケートの運用がうまくいかずに今年度は参考値のような状況で考察をしてきましたが、それでも山野小学校は地域や保護者に愛される学校なんだということが伝わるアンケート結果でした。我々も評価委員として誇らしい気持ちです。

残念ながら今年度で評価委員の活動は終止符をうちます。あまりに突然の終了であり我々評価委員一同戸惑っていますが、行政が決めた事であり致し方ないことです。振り返れば2000年代はじめの頃から約20年にわたって継続してきた学校関係者評価ですが、終了するに至った理由としては、各地域や学校によってその温度差や一部形骸化していたためであると聞いています。次年度から地域運営学校の体制が変わり、「学校運営協議会」という新体制でスタートいたします。その枠組みには関係者評価はありません。しかしながら小泉校長先生より活動グループとして学校評価をサポートしてほしいと依頼をうけまして、人数は減りますが新たな体制をとることになっています。おそらく保護者の皆様にはアンケートという形でご協力いただく可能性がございますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

最後に教職員の皆様へお伝えしたいことがあります。今までの関係者評価という形はなくなりませんが、山野小学校では学校運営協議会や活動グループのメンバーが、第三者的要素も保ちながら学校評価にかかわり、いくつかの提言をしてまいります。皆さんの現場の声は引き続き提言の参考にしていきますので、現状をあきらめることなく声を上げ続けてください。全ての関係者が一致団結し、素晴らしい学校運営ができるよう共に頑張っていきたいと思います。

世田谷区立山野小学校

令和7年度学校関係者評価委員会

時田	学	和賀	万貴
神部	恭久	津田	美欧
阪西	由理	齋藤	靖之
工藤	恒健	長島	知数